



答 修繕や機能確保に取り組む

片平 司 議員

災害に強くなるまちづくり

片平 普通河川維持管理について伺う。耕作放棄地が増え、さらにイノシシ等被害で、河川の破壊が多くなっている。河川利用者が減少している中、維持管理が非常に困難になっている。昔は数軒が利用、今では1軒か2軒の利用で、受益者負担では出来ない。基本的に市が管理しなければいけないのだから、災害で壊れたら市が修復するか、又は受益者負担を軽減して早期に修繕すれば、結果的には市の負担が軽くなるがどうか。

産業部長 農業用の水路については、受益者負担も災害適用も含めケースバイケースで、建設課と一緒に共有しながら平等の原則を守りつつその事情を考えます。

提供やアダプト制度の推進を図りながら、効果的な維持管理に努めます。

総務部長 5年間で34件中9件対応できました。

市長 市内に危険な家屋が186件あり、解体等の対策を講じて安全対策に取り組んでいます。

土木建築部長 危険家屋の対策は、防災上重要な課題であり制度の取組の視点とか、事業効果などを総合的に判断して、今後検討が必要と考えています。

倒壊する恐れのある建物対策（空き家等）

片平 持ち主のいなくなった空き家が増え近隣住民は困っている。野中の一軒家の場合、建物が倒壊しても周囲への被害は限定されるが、街中で対応はしていると思うが、解決に至っていない。呉



お詫び

議会だより第30号の17ページに掲載した、議会広報特別委員会の研修報告の記事において、わかりにくい表現があったこととお詫びします。キャプション↓見出し

- 正副議長 6年以上
- 上田 正 議員
- 議員16年以上
- 新家 勇二 議員
- 議員12年以上
- 登地 靖徳 議員
- 沖元 大洋 議員
- 議員8年以上
- 林 久光 議員
- 胡子 雅信 議員
- 片平 司 議員
- 大石 秀昭 議員

永年勤続議員表彰

第130回中国市議会議長会総会において、次の議員が表彰されました。

委員会報告

産業建設常任委員会

5月15日開催

現地視察

平成24年度当初予算における事業箇所を中心に、昨年度施行及び予算に係らないが特に視察を必要とする事業箇所を視察しました。視察場所は次のとおり。

1. 江南2号1路線改良工事（江南交差点）
2. 江南・飛渡瀬地区歩道緑地化工事
3. 原地区急傾斜地崩壊防止工事（飛渡瀬原地区）
4. 大柿浄化センター増設工事
5. オリーブ園地造成事業（深江釣附地区）
6. 県道大君深江線道路改良工事（深江地区）
7. 県道深江柿浦線道路改良工事（深江地区）
8. 水産加工施設新設地（深江漁港）
9. 石油貯蔵施設立地対策交付金事業（鹿川港）
10. 農業外企業参入事例地（沖美南農業団地）

11. 西の浜新住宅改修工事（高祖地区）
12. 三吉87号線橋梁工事（三吉地区）

質疑

Q 江南交差点改良工事の目的と予定は。

A 県道江田島大柿線に、県道においては右折レーンを設置するとともに、直近の市道を集約することにより、安全な交通の確保を図る。今年度は、用地買収、H25・26年度で工事を予定。

Q 急傾斜の受益者負担金は、条例上3割とされているが、実質の負担割合は1割である。しかし法定外公共物の地元施工負担の場合は、3割となっている。このことに不公平感があるか。

A 急傾斜の受益者負担金は、条例上3割とされているが、実質の負担割合は1割である。しかし法定外公共物の地元施工負担の場合は、3割となっている。このことに不公平感があるか。

Q オリーブ園地事業の水源地の確保と植樹本数は。

A 急傾斜の受益者負担金は、4町合併時にそれぞれの負担割合が実施されていたものを統一して1割負担としている。なお、里道・水路等の地元施工負担については、現在検討中である。

Q 水産加工施設の概要は。また土地の使用料を徴収するのか。

A 浄化センターの排水を利用する予定である。植樹本数は7haの園地で2,400本を予定している。

Q 沖美南農業団地の経緯は。

A 深江漁協から漁港施設用地の有効利用及び水産振興として、水産加工施設新設要望が提出された。施設は海外向けのカキ加工場の新設である。また土地の占用料は徴収する。

Q 事業のコスト縮減の取組は。

A 当該施設は、平成11年度において「経営基盤確立農業機構改善事業」として、国費1/2、町費1/4、自己負担1/4で実施した。底地は産業廃棄物の処分地であり、現在2つの企業と農業法人が営農を行っている。

橋梁長寿命化計画にCS1P

平成22年度に市道にかかる橋梁251橋（橋長2m以上）の点検を行い、平成23年度に橋梁長寿命化計画を策定し、従来のような架け替えによる更新ではなく、計画的に予防保全することによって、維持事業費の平準化と縮減及び橋梁の安全性の確保を図る。各年度2千

質疑

Q これまでも取組が必要であったのではな

A 更新の橋梁数はわずかであったが、早期着手により指摘のように効果の早期発見があったと思う。

Q 橋梁台帳を提示してもらいたい。

A 251橋の点検を行ってあり、これらの位置・構造・健全度はデータベース化して管理して



▲視察風景

来訪

岡山県瀬戸内市議会

5月18日、瀬戸内市の議会広報編集特別委員会9名の委員が議会広報のつくり方や編集について研修にいられました。質問事項に沿って説明し、瀬戸内市の委員から市民の声の掲載した経緯などの質問を受けました。

宮崎県えびの市議会

5月16日、えびの市の総務教育常任委員会7名の委員が「大柿自然環境体験学習交流館事業」について研修にいられました。事業の成果とこれからの課題について説明した後、意見交換をしました。えびの市の委員からは、補助メニューなど具体的な質問が出され、真剣に協議されました。